

今年のオホーツク海沿岸でのホタテガイ幼生の出現と成長は例年に比べて遅くなりましたが、各地区で来年の放流用種苗を採集するために投入された採苗器には約2千～4千個/袋の稚貝が順調に付着しているようです。ただ、気象庁が7月7日に発表した「異常天候早期警戒情報」によると、北海道では7/12～7/21の期間、気温が平年より「かなり高い」確率が30%以上とされており、海水温などへの影響が気になるところです。

▼さて、例年7、8月はオホーツク管内でのミスダコの漁獲が最も多くなる時期です。最近の水揚げは約1,200t（全道漁獲量の約10%）、金額は約15億円で比較的安定しています。また、単価は全道平均よりも15%ほど高い価格となっており、最近10年間のオホーツク管内での魚種別漁獲量及び金額ではいずれも9位となっています。

▼網走水試ではミスダコに関して、資源モニタリングのため漁獲統計調査を継続しているほか、網走管内たこ漁業連絡協議会が中心となって25年以上前から実施している小型ミスダコ（3kg未満）の標識放流について、放流・再捕情報を整理と解析を行っています。これまでの解析からオホーツク海沿岸のミスダコは、①季節的な深淺移動（夏：沖合へ、冬：沿岸へ）をする、②放流した地区内での再捕が圧倒的に多く、他地区への（浜なりの長距離）移動は少ない、③成長は夏から秋に非常に速く、冬から春にかけて非常に遅いなど、オホーツク海沿岸でのミスダコの移動と成長に関する知見が得られています。（詳細は網走水試HP「研究成果の紹介＞調査研究部管理増殖グループ」をご覧ください。）

▼さらに、オホーツク沿岸でのミスダコの生息水温に関する知見を収集するため、昨年7月～10月にミスダコ103個体に水温を記録するロガーを装着して放流調査を実施し、これまでに9個体が再捕されています。回収された水温ロガーの記録では、再捕個体の経験平均水温は13.5～18.0℃、最高経験水温は20.1℃となっており、これまで知られているミスダコの生息上限水温（16℃）よりも高い水温を経験していたと考えられます。一方、同時に観測した能取岬沖の主要漁場の水温は、7～9月の間は沿岸と沖合で6℃ほどの差がありましたが、10月中旬以降は水温差がほとんどなくなっていました。また、水温ロガーを取り付けた水深60mの漁具の操業記録（7～9月の間）によると8月上旬に漁獲尾数が急増しており、これには沿岸側（水深20～30m）の水温が上昇したことが影響したのかもしれませんが（詳細は添付ファイルをご覧ください）。今後、再捕個体の増加により、オホーツク海沿岸のミスダコが季節毎に経験する水温が、より詳しくわかることが期待されます。漁獲、水揚げ時に水温ロガーが装着されたミスダコを発見した際には、是非、ご一報下さるようお願いいたします。

▼最後に、管内の市町・漁協・水産加工協を対象に例年実施している「巡回訪問」を今月上旬から行っています。水試の試験研究の状況をお伝えするとともに、浜の課題・問題などを直接お伺いして、今後の水試の取り組みに反映させたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

（ 網走水試 野俣 ）